

## 新造フェリー「さんふらわあさつま」乗船会報告(その2)

事務局長 池田良穂

船上講演会では、まず㈱フェリーさんふらわあの久世営業企画室長から、新「さんふらわあさつま」を建造するにあたってのコンセプトの説明があった。新船では、カジュアルクルーズというコンセプトの基本として、乗客に気軽なクルーズを楽しんでもらえるようなハードとソフトを整えたとした。

船室としては、個室を大幅に増やし、全室にシャワー・洗面スペース、トイレを完備し、バルコニー付のスイートルームにはバスタブも装備した。

インサイドプロムナードとアトリウムでは、バンドの生演奏や、プロジェクションマッピング、星座教室などを開催して乗客を楽しませるソフトを充実し、窓を大きくとってゆったりと海を眺めることができるようにした。

続いて、JMUの阪口会員から「さんふらわあさつま」の技術的な解説があった。2重反転プロペラにして、1軸船の推進性能の良さと、2重反転によって無駄な回転流をなくしてプロペラ効率を向上させてことから、前「さんふらわあさつま」よりも大型化したが、エンジン出力は30%低減できたとした。大型トラックの数は15%アップしている。

講演会の後、ブリッジ見学を行った。ここでも、燃料消費量は約2/3になっているとのことで、大きな省エネが達成でき、燃料油の価格上昇が続いている中、運航コストの低減に寄与していることのことであった。

17時5分前に大阪南港を出港した後、18時15分からレストランの一角で参加者全員での夕食会を開催した。梅田会長の挨拶と乾杯の音頭で始まり、多彩な料理の並ぶバイキングスタイルの夕食を楽しんだ。会社からのワインの差し入れもあり、心から感謝申し上げる次第である。

この夜もインサイドプロムナードでの弾き語りや、アトリウムでのプロジェクションマッピングもあったが、多くの参加者は船談義に盛り上がってしまい、そちらは帰りの便までお預けとなった。



左舷ウイングの操舵装置



ブリッジの窓から

